



かかやく子ども

～自立と共生の礎を培い、今と未来を豊かで創造的に生きる子どもを育てる学校～

もっとチャレンジ!～かんがえる子ども すすんでする子ども 共に生きる子ども～

新年度 3年目の老上西小学校教育の計画(案)です!

平昌オリンピックが終わりました。

オリンピックのよさの一つは、人が一生のなかで出会うこと、困難を乗り越え、夢をめざす人間の力、可能性、すばらしさや美しさ、強さも弱さも…、それらをわかりやすく観せてくれるところにあるのでしょね。今月9日に始まるパラリンピックにも関心を持ちたいと思います。

※ ※ ※

平成30(2018)年度は開校して3年目となり、現在、新年度の学校経営をあれこれ構想中です。

これまで、「1年目は、スタートの年で…」「2年目は、基礎固めに…」と思ってきましたが、今度は今度で、「きっと将来の学校を大きく方向づける3年目だ!」と今から緊張を感じています。

“もっと チャレンジ!” からその次へ!

『自立と共生の礎を培い、今と未来を豊かで創造的に生きる子どもを育てる学校』を教育目標に、本年度もさまざまな教育活動に取り組んできました。



《2学期の学習風景から》

本年度のスローガン“もっと チャレンジ!”は、こちらの願い以上によく意識され、子どもたちはいろいろな場面でよくがんばりました。

新年度に向けても、子どもにわかりやすく、家庭、地域の方にも馴染んでいただけるような新しいスローガン=合言葉を見つけたい…。

四苦八苦しているところです。

☆ ☆ ☆

“模索”や“試行錯誤”や“trial and error”を大切にしたいと思います。

確かな学力を身につけたり、自らを肯定的に受け入れたり、多様性を大切に生きていくことなども含め、自立と共生の礎はそういうところから培われていくと考えるからです。

特に、先行きの不透明さと変化や変革が続く

今日の社会においては、人は直線的に進んでいくよりも、模索し、試行錯誤し、紆余曲折しながら歩んでいけることの方が大事だと考えるのですが、いかがでしょうか。

理想的過ぎるのかもしれませんが、子どもにせよ誰にせよ、失敗ややり直しが、自分にも周囲にももっと許容されるなかで、たくましく、しなやかに育っていく…、生きていく…ことができれば本当によいと思うのです。

重点的に取り組んでいきたいこと

1 授業づくり・学力向上

①授業づくり・学力向上

算数科指導にかかわる国立教育政策研究所の指定研究も2年目を迎えます。

その取組をとおして、子どもたちの学びをより確かなものに、また、私たち教員の指導力の向上も図っていきたいと思います。

10月26日には2年次の研究発表を予定しています。

②「特別の教科 道徳」 「英語科・外国語活動」

国の学習指導要領の改訂により、教科となる道徳と5・6年生での英語科、3・4年生での外国語活動がいよいよ本格的に始まります。

準備はしてきていますが、円滑にスタートできるようにしたいと思います。

③学力補充

子どもたちの基礎的な学力が定着するよう努力を続けたいと思います。

ただし、学力向上に取り組みれば取り組むほど、家庭学習の重要性が見えてきます。

お家での学習習慣の確立など、一層のご協力をお願いすることにもなると思います。

④これからの運動会やはぐくみタイム

運動会や総合的な学習の時間なども、より子どもの状況や課題に応じたものにしていけるように試行錯誤を重ねていきたいと思います。

2 自立と共生・社会へのはたらきかけ

①委員会活動・クラブ活動・縦割り活動

②近隣諸施設との連携

③学年や学級での自主的・自治的な活動

④社会へはたらきかけ、社会貢献活動

少しずつ成果を感じるようになった委員会やクラブ活動、縦割り活動をさらに活性化させるとともに、子どもたちが広く世界を知って、自分たちなりのはたらきかけや社会貢献ができるようにしていきたいと思います。

3 コミュニティースクールの推進

①活動の定着と拡大

②学校教育への参画を求める取組

③学校の現状や課題についての理解と家庭や地域の教育力の発揮を求める取組

“家庭、地域、その他さまざまな力が集まる学校にしていきたい” “家庭、地域、学校がそれぞれの役割を担いながら協働していけるようにしたい”と願う老西小コミュニティスクールです。

本年度も老西小ふれあい農業合校や各学年の活動などに多くの方々のお力をいただきました。

老西小フラワークラブやミニコンサートなどを始めていただいたことも本年度のうれしい出来事です。

それらを定着させ、さらに広げていきたいと思えます。

また、これからの学校づくりでは、学校の現状や課題についてさらに理解を求め、開かれた学校づくりを一層進めていく必要があると考えています。

4 働き方改革

働き方改革については、学校としての考えなどもお伝えしていきたいのですが、ここではとりあえず、先ごろ、滋賀県教育委員会から発表された『学校における働き方改革取組方針』から策定の趣旨の一部を抜粋させていただきます。

《策定の趣旨》から

長時間にわたる超過勤務の常態化は、教職員の心身の健康を損なう恐れがあるだけでなく、教職員が創造的に教育に取り組む活力や一人ひとりの子どもと向き合う時間を奪うことになりかねません。

(中略)

学校における働き方改革の目標は、子どもたちの「夢と生きる力」を育むために教育の質を高めていくことにあります。

☆ ☆ ☆
以上、現段階での新年度構想の一部でした。おっと、その前に本年度をしっかりと締めくくっていかねければ…。 (清水康行)

